

単元名：シュートボール【第4学年】

関連：
助言集
p.22

運動の特性

パスをつないでボールを運び、シュートチャンスをつくってゴールにシュートできるかどうか楽しいゲームである。



ルールの設定

試合人数

- ・4人対4人

試合時間

- ・前半3分×後半3分
(ハーフタイム1分)

ルールの工夫

- ①キャプテンがじゃんけんをして勝った方がボール持ち、エンドラインからゲームをスタートする。
- ②ドリブルはなし。パスをもらったらその場からパスかシュート。
- ③ゴールキーパーとしてゴールエリアに入れる人は1人。
(キーパーを固定して配置するのではなく、攻守の中でだれがキーパーとして入ってもよいこととする。)
- ④ゴールラインの外からシュート。ラインを踏むのは反則。
- ⑤ボールがコートから出たら相手のボールとなり、ボールが出たところから始める。
- ⑥ゴールは一人初回3点。(得点した子を把握するために、シュートが決まったら帽子を赤にする。) 2回目からは1点。
- ⑦相手のボールを取るには、パスカットか転がっているボールを拾うかのどちらか。
- ⑧得点が決まったらエンドラインから始める。
(始めるとき相手チームはハーフラインまで下がる。)
- ⑨ゴールとゴールの間にボールが入ってしまったら、入れてしまったチームではない方のボールとなる。
(始めるときは中央のラインから。)

【反則】・接触プレー

- ・ボールを持って歩く



場の工夫

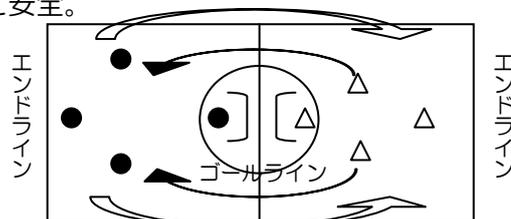
ゴール

- ・背中合わせでコート
の中央に置く。
高さ・・・2m
幅・・・3m
奥行き
・・・1.5m



コート

- ・校庭や児童の実態に合わせて決めるとよい。
今回は、縦15m 横11m。
※ゴールとゴールの間に砂袋等でおもりを置くと安全。



用具の工夫

ボールの大きさ・柔らかさ

- ・ソフトドッジボール1号
(ボールへの恐怖心を和らげるため、普通のドッジボールではなくソフトドッジボールを使用。)
- ・空気は少し抜き、児童が片手で持てるくらいの柔らかさにする。

審判

- ・6チーム中4チームが試合に出るので、残りの2チームがそれぞれAコートBコートの審判を行う。
- ・主審1人、得点2人、ラインズマン3人とチーム内で分担。
- ※なるべく1人1回は単元中に主審を経験できるようにする。
- ※一人で自信のない子にはチームの誰かがフォローで副審に付く。